

編集・発行
若松地域センター管理運営委員会

ふれあい情報誌

わがまち わかまつ



2022年 3/31 発行

ふれあいまつりの歩み



「福島県伊達市復興支援物産展」
売上、なんと78万円!



「喫茶ふれあい」調理室
カレーライスの香りをお届けします!



「ふれあい緑日」
寄ってらっしゃい見てらっしゃい!



「オープニングの阿波踊り」 一気にまつりはヒートアップ!



「手作り講習」 子どもも大人も夢中になって作成中!

若松ふれあいまつり～地域をつなぐイベント～

「若松ふれあいまつり」は平成8年6月、若松地域センター開館記念の開催以来、毎年20を超える団体、個人の方々の温かいご協力とご支援を得て、若松地域の絆を育んできました。新宿区役所「つつじ連」の阿波踊りは、オープニングを16年間飾ってくださいました。平成23年、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故から間もない10月のまつりで「福島県伊達市復興支援物産展」を実施、以来6年間、来場者による温かい支援と交流が続きました。高齢者給食サービスの方々による「喫茶ふれあい」では、優しい味のカレーライスが好評でした。平成24年度に始まった若松地区協議会との協力による「優しさまんたんスタンプラリー」は、終日賑わいました。令和4年11月にはコロナも収束することでしょう。コミュニティの輪が更に広がることを願いつつ、「若松ふれあいまつり」の準備を進めて参ります。



東京都
入選

富久小学校2年 鈴木 仁菜さん

◆ 令和3年度明るい選挙啓発ポスター展 ◆

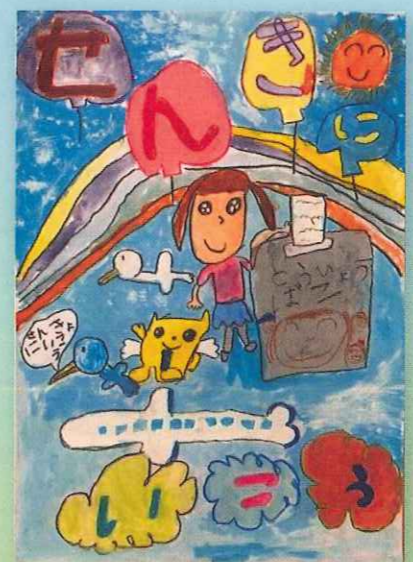
新宿区選挙管理委員会では毎年、将来の有権者である小・中学生や高校生が、政治や選挙について考える契機になり、また関心を持ってもらえる機会になることを願って、「明るい選挙ポスターコンクール」を開催しています。若松地区の小学校から応募のあった作品が、若松地域センターで展示されました。

明るい選挙啓発
ポスター展

(問い合わせ先)
新宿区選挙管理委員会事務局
☎ 03-5273-3740



東戸山小学校1年 三浦 伊リアさん



富久小学校1年 植田 万詠さん



余丁町小学校5年 村山 凌介さん

◆ 「環境にやさしいこと」未来に向けて! 私たちにできること ◆

令和3年6月5日、吉住健一新宿区長が「新宿区ゼロカーボンシティ」の実現に向けての取り組みを表明されました。(※)

私たちを取り巻く自然環境は、未曾有の災害が多発しており、これらの要因は、人間活動に伴う二酸化炭素増加によるものであると言われています。地球温暖化を引き起こす二酸化炭素を減らすために、世界中で「脱炭素化」や、SDGs持続可能な開発目標17項目についての取り組みが広がっています。このまま何もしないでいると地球が持たなくなってしまうからだと言います。温暖化対策は個人では、一

度にたくさんできないため、「できること」から取り組んで

いきたい。水や電気を大切に使う、ごみの削減の工夫、資源の有効活用、緑の保全

など、私たちにできることはたくさんあり

ます。ゼロカーボンシティの実現に向

けて、できることから始めましょう。

(※)区は区民・事業者等と一体となって連携・協

力しながら、2050年までに区のCO2排出量実質

ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」実現に向けて取

り組むことを、ここに広く表明します。



「わがまちわかまつ」は
ふれあい情報誌です。
若松地域の情報をお寄
せください。
若松地域センター事務局
FAX (3209) 6031
連絡先を明記してくだ
さい。
(7月、12月、3月・
年3回発行)

若松地区・町別人口

住吉町=2,747 市谷台町=1,395 富久町=7,113 河田町=2,788 若松町=5,595 余丁町=4,071
戸山1丁目=2,481 戸山2丁目=5,354 戸山3丁目=1,083 新宿区人口=340,556 (2022.3.1 現在)

若松地区の紹介

新宿区立余丁町小学校開校120周年 余丁町幼稚園開園55周年おめでとうございます



新宿区立余丁町小学校・幼稚園 校長 古谷 勉

今年、余丁町小学校は120周年、幼稚園は55周年を迎えました。コロナの影響でご来賓の皆様をお招きしての盛大な式典を開くことはできませんでしたが、校庭で記念式典と記念集会を開催しました。記念集会では、みんなで作った大きな誕生日ケーキにナイフを入れました。その後、学年ごとに作った大きな横断幕を見せながら、幼稚園は「にじ」の曲



に合わせて手話を、1年生から6年生までは、余丁町小の好きな給食、好きな場所など、学校にかかわる出し物を披露しました。出し物が終わるたびに、観ていた子どもたちから大きな拍手が送られました。久しぶりに幼稚園と小学校の子どもたちが一堂に集まり、楽しいひと時を過ごしました。

「おたすけマークプロジェクト」にご協力を！

新宿区立障害者福祉センター内 代表 坂野 雅彦

この活動は、「おたすけマーク」の普及を通じて、障害者や高齢者、幼児等、誰もが暮らしやすい街づくりを進めることを目的に約5年前に始まりました。困った時は、お互い様です。一方的に“弱者”が支えられる関係ではなく、誰もが助け合えるお互い様の関係性を目指していきたいと考えています。ぜひ若松地区の皆様と一緒に普及活動を進めたいと考えております。宜しくお願いします。



災害時における防災訓練

東京消防庁 牛込消防署 警防課消防係 長命 勇気

牛込消防署では東京地方での大地震発生に備え、震災時における消防活動能力の向上を目的とした訓練を年2回実施しています。

本訓練では、東京地方に震度7の地震が発生した想定で、消防職員に対して任務付与を行い、火災、救助、救急等の多数災害への対応要領を確認します。震災時には限られた消防力で、多くの災害に対応する必要があることから、管内地域の情報収集が特に重要となります。

▼消防署内の訓練状況▶



この状況を踏まえ、令和3年10月には新宿区役所（危機管理担当）、笹筒町、榎町、若松町の特別出張所等の職員の方へ訓練視察を依頼しました。

本視察を通じて、地域に根差した関係機関の「繋がり」の重要性について相互理解を深めることができました。

若松地域センター管理運営委員会のお知らせ

前庭花壇整備



若松地域センターの前庭に、今年度も2回花の苗植えを行いました。夏には、暑さに強い花を、冬には、寒さに耐える花々を植えています。道行く人たちが「きれいですね！」と眺めてくださっている姿を目にします。花と緑あふれる街づくりを目指し、カーボンシティの実現のひとつとして取り組んでいきます。

食事でできる防災 自分や家族を守るための食べ物を備える

災害はいつやってくるかわかりません。食事でできる防災についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。

東京都が作成した「東京防災」・「東京暮らし防災」はみなさんのご家庭にありますか？直ぐ見える場所に保管して、災害に備えて必要なものを準備しておきましょう。

※本会事業「災害時の簡単料理」は、新型コロナウイルス感染症予防・まん延防止のため中止しました。

ライフラインが途絶え、電気や水道が使えないときに役立つ食べ物

❶ 冷蔵庫の中身を活用する

冷蔵庫の中身は、もしもの時に心強い備蓄食料の一部になる。停電することもあるので、生鮮食品など、傷みやすいものから食べる。

❷ 野菜不足で栄養バランスが崩れる

避難生活では、野菜が手に入りやすく、ビタミンやミネラル、食物繊維が不足しがち。野菜ジュースやレトルトの野菜スープ、フルーツの缶詰、サプリメントなど。もしもの時に栄養バランスをとるのに役立つ。

❸ 好きな食べ物や飲み物は活力に

気持ちも体も弱っているとき、好きなものを口にする、元気が出たり、ストレス軽減になったりする。お菓子やコーヒーなども備蓄しておくとうい。

(※ 東京暮らし防災から抜粋)



災害時の非常食(ローリングストック)

災害時の簡単料理とは、現状を想像した場合非常に困難です。市販されている非常食の活用が、誰でも災害時を乗り切ることが出来る手段ではないでしょうか。

普段から、非常用食材、加工品を少し多めに買い置きして、賞味期限が近くなったら食し、少なくなった分を補充しておく。そうすることによって常に新しい非常食の備蓄ができます。非常食は、乾パンのイメージがあるかもしれませんが、種類も多く、水や火を使わなくてもすぐにおいしく食べることが出来ます。買い足しも楽しみながら非常食を選ぶことが出来ます。

また、家庭でもできるだけ保存のきく常備菜を作り、それを食べたなら新しいものを備蓄する。家庭で作る常備菜のレシピを残しておくのも役立ちます。このようなことを総称して「ローリングストック」と言います。

